
第347回（2月25日開催）公開セミナー

2009年 会社を強くする経営プロジェクト

株式会社現代経営技術研究所 上級主任研究員 大槻裕志
シニアコンサルタント 藤井隼夫

昨年の秋のリーマンショック以降の日本企業のスピーディでドラスティックな対応そのものが企業を取り巻く環境を激変させている。これが一段落したら、2009年からは激しく動く環境を見極めながら構想の組み換えを行う年になる。

未来が見えないからこそ、過去の延長線上に計画を積み上げていく構想ではなく、意思的に未来を描いてそこへと突き進んでいく構想が求められている。

その時、各社の構想設定のクオリティを左右するのがプロジェクト力である。この場合のプロジェクトとは、未知・未踏領域に向かって進んでいくというプロジェクトが本来的にもっている語義でご理解いただきたい。

現在の苦境を乗り越え、会社を強くするプロジェクト。ここでプロジェクトの成否を握るのが、次の展開へと向うコンセプト創造へのあくなき執念である。危機意識が強ければ強いほど、メンバーは現状分析に深入りしがちである。そして現状の欠陥を見つけて、そこを治すことに議論が集中する。しかし、多くの場合、欠陥を修理することで、得られる成果は小さくないにしろ、未来を切り開く構想にたどりつくことにならない。

次の展開を担う新しいコンセプトを創造し、そのコンセプトに基づいて構想の全体像のシステム表現、構造設計をする力がプロジェクトを力強く推進させていく。このようなコンセプト創造、システム表現、構造設計は、プロジェクト教育を通じて身に付けることができる。